

わいわいひろば おすすめ絵本のたより

第2号 2025年5月2日 作新学院大学女子短期大学部



ごあいさつ

作新学院大学図書館館長

花田 千絵

絵本の時間

私は7歳の息子を寝かしつけるときに一緒に絵本を読んでいます。たくさんの選択肢から絵本を選ぶことは簡単ではありませんが、何回も「読んで！」と言われるのは、やはり楽しい絵本です。

昔話「へっこきよめさん」は親子で笑える鉄板です。「おばけのコンサート」(たむらしげる、福音館書店)は、かわいらしいおばけたちが鳴らす楽器の音を私なりの調子で読んでいますが、他の人はどう読むのか、ひそかに気になっています。「ぼくのふとんはうみでできている」(ミロコマチコ、あかね書房)は、生き生きとした躍動的な絵と詩的な世界の表現に加えて、引き込まれるお話の展開が魅力的で、私と息子のお気に入りの絵本のひとつです。

あと何年、息子に絵本の読み聞かせをできるかと思うと、絵本を通したコミュニケーションは貴重で豊かな時間だと思えてきます。

保育を学び、実習先で読み聞かせを経験してきた学生たちのおすすめ絵本が、地域のご家庭のコミュニケーションの一助になれば幸いです。

「まざっちゃおう！ いろいろな いろのおはなし」

アリー・チャン:作/小栗左多里:訳
フレーベル館

私のおすすめする本は、アリー・チャンさんの「まざっちゃおう！ いろいろな いろのおはなし」という絵本です。

この本は赤、青、黄の3種類の色から、混ぜり合うことで新しい色が生まれるというストーリーで、自分と違うものを受け入れることで新しい発見があるという絵本です。この本はストーリー性があるため、一見3歳以上向けのようには感じますが、コントラストのはっきりとした絵や、丸という形から0.1歳児でも楽しめると思います。

最初は赤、青、黄の3種類だけで描かれていますが、お話が進むにつれさまざまな色が登場するので、子どもたちは色の混ぜりあいを視覚的に感じ取りながら絵本を楽しむことが出来ると思います。実際、色に関する絵本を幼稚園実習で3歳児の子どもたちに読み聞かせを行った際に、「この色好き！」「かわいい！」といった、色に対する興味をその絵本を通して引き出すことが出来ました。

この絵本は、子どもたちに「違いを受け入れることの大切さ」や「協力により新たな考えが生まれる」といったメッセージがあるため、言葉の理解力や注意力が発達し始める3.4歳頃の子どもの特におすすめです。

2年 青木世史瑠

- ☆作新学院大学女子短期大学部で保育を学ぶ短大生達のおすすめの絵本を紹介します。
- ☆今年度は、わいわいひろば内にてキッズスペースを設けています。
- ☆作新学院大学図書館で、一般の方も絵本や本を借りることができます。
- ☆手続き方法などをお知りになりたい場合は、お気軽にスタッフまでお声かけください。

「ぐるぐるさん」

ひらぎみつえ:作
ほるぷ出版

私のおすすめの本は、ひらぎみつえさんの「ぐるぐるさん」です。

この絵本はしかけ絵本になっていて、文字はあまりなく、横に付いているダイヤルを回して、絵柄を変えていくという絵本です。私は幼稚園実習で3歳児のクラスに入った際、このシリーズの絵本を見ました。

色々な仕掛けを楽しんでいる様子を見て、子どもたちがこのような本に興味を示すことに気づきました。子どもだけでなく、大人も楽しめる絵本になっていると思います。普通の絵本よりもサイズが少し小さく、お膝に乗せて一緒に読むこともでき、自然に触れ合うことができます。

2歳頃から楽しめるため、親子でのふれあいにぴったりです。ぜひ手に取って、お子さんと一緒に読んでみてください！

2年 仁平姫那

